

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン) の取組事例

「家庭教育支援」(宮城県石巻市)

取組の概要や経緯

- ・家庭教育支援・・・家庭教育学級の開設、家庭教育支援チーム活動

石巻市は東日本大震災で大きな被害を受け、子育て環境にも大きな影響を受けた。親子の居場所作りや心のケア、コミュニティの再構築が急務となったことを背景に、子育てサポーターや子育てサポーターリーダーが中心となって平成23年9月から家庭教育支援活動をはじめ、行政や子育て支援団体等との協力により、継続的に支援を続けている。

内容

家庭教育支援：
家庭教育学級の開設
家庭教育支援チームによる事業の展開

- (1) 家庭教育学級
市内全・小中学校及び保育所、
幼稚園等で実施
- (2) 家庭教育支援チームによる活動
子育てサロン、家庭教育学級講師、
託児の実施

ポイント

- ・家庭教育学級の開設
小・中学校だけでなく私立の幼稚園など
へ家庭教育学級開設について働きかけている。
今年度は、合同学習会を3回開催した。
4回目は新型コロナウイルス感染症の影響
により中止となった。
- ・家庭教育支援チーム活動
スタッフを身近な存在として感じ、気軽に
育児相談できるような雰囲気づくりを大切
にしている。



← 家庭教育学級
第1回合同学習会
のようす



↑ 幼稚園で開催された家庭教育学級の
ようす

成果

- ・家庭教育学級の開設について、小中学校だけでなく保育所や幼稚園などへと拡大することによって、家庭の教育力を高めることができた。また、保護者同士のネットワーク作りにつながった。
- ・子育てサロンの開催により、親子や親同士の交流を深めることができた。

今後の方向性

- ・家庭教育支援事業は、家庭教育支援チームの活動により支えられている。チーム員の人材育成を重点に置きながら、今後も継続して子育て支援活動を展開できるようにボランティアの確保に努める。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域学校協働活動の取組事例

「親子に寄り添い共に学ぶ家庭教育支援」(宮城県白石市)

取組の概要や経緯

平成26年度に結成した家庭教育支援チームの活動を中心に、家庭教育の講座等を行い、親の学びの機会を作ってきた。
また家庭教育支援チーム員の研修も平成26年度より継続して行いスキルアップを目指している。

内容

「親の学びのプログラム出前講座」では、しろいし家庭教育支援チーム「ペアレントらん」が講師を務め、小学校で行われる一日入学説明会の機会を活用し、未就学児の保護者向けに、入学における不安等を保護者同士で考える出前講座を実施している。また、将来親になる中学生に対し、妊婦疑似体験や赤ちゃん体験を通して、命の尊さ・親への思いを考える出前講座を実施している。

ポイント

- ・学校行事等必ず保護者が参加する場に出向いて講座を行うこと。
- ・答えを示すのではなく、参加者が自分で考え、気づいてもらえるように心がける。
- ・子連れの参加者が安心してプログラムに集中できるよう、子どもを見守る人員も用意する。

成果

- ・コロナの影響により、活動を縮小せざるを得ない状況ではあったものの、感染対策を行いながら出前講座を実施することができた。
- ・中学校の出前講座では、生徒から命の重さや大切さ、自分を支えてくれる人への感謝の言葉を聞くことができ好評であった。



今後の方向性

- ・来年度も引き続き家庭教育支援チームの出前講座を行う。
- ・未実施の学校、保育園・幼稚園等についても働きかけをしていく。
- ・未就学児を対象にした講座でも、親の学びのプログラムや保護者の情報交換の場を盛り込んだプログラムを考えていく。



「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域学校協働活動の取組事例

「保護者を支える家庭教育支援活動」(宮城県 名取市)

取組の概要や経緯

近年、少子化や核家族化などに伴い、家庭を取り巻く課題が複雑化・深刻化する傾向にある。様々な課題解に向けて、**親子で参加する交流機会**の提供、**子育てサポーター養成講座の開催**、公民館や児童センターと連携した**家庭教育講座・保護者の交流**を行い、保護者に対して、子育て・家庭教育の包括的な支援を目指している。



内容

- ・家庭の教育力の向上を図るため、「子育て・親育ち講座(親子参加型の家庭教育に関する各種講座、学習会等)」を開催する小・中・義務教育学校を対象に学習活動を支援する。
- ・名取市子育てサポーター養成講座を開催し、**安心して子供を生み育てることができる地域環境づくりの促進と地域で活躍できる人材の育成**を図る。
- ・親子参加型のイベント「移動交流サロン」、**保護者の学びと交流の場を提供**する家庭教育講座を開催する。



ポイント

- ①講座の開催を促進するために、各校に1年間の実績をまとめた冊子を送付する。
- ②子育てサポーター養成講座は全5回で設定。**今日の家庭・親子を取り巻く問題に幅広く触れることができるような講師を依頼・講座内容**にする。
- ③移動交流サロンや家庭教育講座は、公民館や児童センター等の市内施設を活用するとともに、**家庭教育支援チームと連携**して準備や当日の運営を行っている。

今後の方向性

- 子育て・家庭教育支援について、柔軟に・包容力を持った活動を続ける。
- 家庭教育支援チームがより自立したチームとなるように、研修会等への参加を促すとともに、定例会においてもスキルアップを図るトレーニングを取り入れる。
- 公民館・児童センター・保健センターと連携し、幅広い世代・地域を対象とした家庭教育講座を実施できるようにする。

成果

- ・「子育て・親育ち講座」「子育てサポーター養成講座」の参加者に行ったアンケート調査での満足度は、両講座とも肯定的な意見が100%と好評であった。
- ・子育てサポーター養成講座修了者が「今回の学びを生かしたい」「自分の経験を伝えたい」という思いを持ち、新たに6名の方に支援チームに登録していただいた。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「家庭教育支援事業の取組事例」(宮城県角田市)

取組の概要や経緯

- 令和元年度から、市内全域の保護者を対象にした事業を家庭教育支援チームと運営していくことにより、参加者同士や地域住民とのつながりづくり、家庭教育支援チーム活動の展開を目指している。
- 関係機関との情報共有の場を設け、より充実した家庭教育支援を行うための仕組みの整理を行う。

内容

- 家庭教育支援事業「ふぁみふぁみ」(全7回計画)
 - ①②「はじめてのリトミック」③「子育てカフェ」④「親子で楽しむえほん選び」
 - ⑤「手作りおもちゃづくり」⑥⑦「楽しくリトミック【コロナのため中止】」
- かくだ家庭教育支援チーム活動
家庭教育支援事業「ふぁみふぁみ」の運営協力
- 家庭教育学級
市内保育施設9施設で実施する家庭教育支援事業に対して、講師謝金の面で支援を行う。
- 家庭教育支援研修会【コロナのため中止】
市内家庭教育支援関係機関職員、及び子育てサポーター等を対象に、講師を招き家庭教育支援の手法について講話をいただくとともに、グループワークを通して情報共有を行う。

ポイント

- ①参加の敷居を低くし、講座参加へのきっかけづくりや親子の愛着形成、保護者同士が交流する場を創出している。
- ②地域住民の協力と参加者の交流に重点を置き、交流が継続するよう努める。
- ③今まで事業に参加したことがない人の参加を促すため、参加しやすい内容の設定や保育施設等への周知依頼、ホームページ上でのアーカイブ作成などを行う。

成果

- 親子の愛着形成を図るとともに、保護者同士の交流を重要視し、講座後にはなし会を設定するなどの工夫を行った。今年度から実施の子育てカフェは参加者から定期的に開催してほしいとの声をいただいた。家庭教育支援チーム員も参加者と交流し、地域の人との繋がりがづくりの場ともなっている。



子育てカフェ



手作りおもちゃづくり



家庭教育支援チーム活動

今後の方向性

- 家庭教育支援チームの整理と人材育成、及び活動の場の創出
- 家庭教育支援関係機関との連携、情報共有の場の創出
- 家庭教育支援事業の周知
- 中長期的な目的の再設定と、年次計画を行う。

学校・家庭・地域連携協力推進事業(学校を核とした地域力強化プラン) 「地域学校協働活動(家庭教育支援活動)の取組事例

「学校・家庭・地域の連携による教育力の向上」(宮城県 多賀城市)

取組の概要や経緯

【家庭教育支援活動】

学校・家庭・地域による相互の連携が求められる中、その一端を担う、家庭での教育の重要性が高まっている。そのため、子育て、食育等に関する家庭教育講座を実施したり、家庭教育支援チーム員による相談活動等を行ったり、家庭での教育力(親教育力)の向上を図る。

内容

【家庭教育支援活動】

- ・小中学校で子育て等に関する講座を実施
- ・家庭教育支援チーム員による親の学び講座、相談活動 等

ポイント

- ・入学説明会や就学時検診等を活用し、多くの保護者が参加しやすいようにしている。
- ・各学校の年間行事の中で、柔軟に計画しやすいように期間を広げたり、中学校区毎の地域ぐるみ生徒指導の講演会やフリー授業参観での家庭教育講座を実施するなどの工夫をしている。

成果

- ・今年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため、家庭教育講座を実施することができなかったが、親子参加型の家庭教育講座を「星を見る会」を実施し、星座に関する知識を増やすなど星座観察を通して親子で触れ合いながら学ぶ機会を提供できた。

今後の方向性

- ・保護者や地域の実態やニーズに合わせた講座の実施を検討する。
- ・家庭教育支援チームとの連携を強化し、年間を通して親の学びの機会や相談活動などを実施できる体制を構築する。



多賀城政庁を舞台に星座観察



5台の特殊な天体望遠鏡で観察



月、木星、土星などを観察

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

家庭教育支援活動の取組事例

「地域ぐるみによる教育支援」(宮城県登米市)

取組の概要や経緯

子育てサポーターやサポーターリーダー資格を持つ市民が、子育て中の保護者を支え、震災を経て転入者、転居者が増加したことで、希薄になりつつある、住民同士のコミュニティの再構築や、保護者同士の交流機会、保護者の心が休まる時間を提供していく

内容

- 子育てサポート事業(託児)
公民館、ふれあいセンターをはじめ、市が主催する事業やイベントの際、保護者が安心して事業に取り組めるよう、同じ会場内で乳児や未就学児の託児を市子育てサポーター登録者が行う。
- 家庭教育支援チーム
平成30年度に本市にて家庭教育支援チームを発足。子育て世代の親としての学びの支援を目的とし、市内の子育てサークルメンバーや県子育てサポーター養成講座修了者17名で活動している。



ポイント

1. 保護者が子どもから離れる時間(託児)を提供することで保護者の心を休める時間をつくとともに、親の学びの機会を提供する。
2. 保護者同士、地域住民との交流により、子育てや子どもに対する悩みや不安を共有し合えるコミュニティ形成のきっかけをつくる。

成果

- ・子育てサポート事業
公民館等の参加者募集に積極的に活用してもらい、今年度は3事業へ子育てサポーターを派遣し、子育て世代の事業参加の促進に寄与した。
- ・家庭教育支援チーム
アウトリーチ型の自主事業は開催できなかったものの、他市家庭教育支援チームの見学や、学ぶ土台づくり事業の支援を通して、チームのスキルアップを図った。

今後の方向性

- ・子育てサポート事業
事業の認知度が低いため、公民館をはじめ、市関係機関等への周知を図る。
- ・家庭教育支援チーム
日頃から多方面で活動するメンバーで構成されているため、チーム員の連携強化を図る。また、チーム員が主体となって事業運営ができるよう積極的に研修会等を開催し、チーム員の更なるスキルアップを支援する。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域学校協働活動の取組事例

「できることを、できるときに、できるところから、みんなで育もう栗原っ子」(宮城県栗原市)

取組の概要や経緯

- 本市において、子供の教育や躰について不安をもつ親は少なくはなく、また、子育てに不安を抱えていても、身近に子育てや家庭教育に関する相談をする場が少ない。こうした状況を踏まえ、栗原市家庭教育支援チームが中心となり、子育てについての学習機会や保護者同士の情報交換、親子の交流や触れ合う場を設けるための学習会等を開催し、家庭の教育力を高めるよう努めている。



講師を迎えての学習会

内容

- 子育てに悩みや不安を抱える保護者を対象とした「親の学び」の機会となる講習会や情報交換会、親子触れ合い活動等の家庭教育学級の開催を推進する。
- 保・幼・小・中学校において開催される家庭教育学級を対象に、講師謝礼を助成する。
- 放課後の小学校等を活用して、子供が自ら学ぶ力を身に付け、地域で子供を育む環境を支援する。



放課後子ども教室における支援

ポイント

- 宮城県が進める「学ぶ土台づくり」の一環として、栗原市家庭教育支援チームを中心に、県教委で作成した「親のみちしるべ」を活用した「親の学び研修会」を実施する。
- 保・幼・小・中学校からの要請で、子供の躰けや子育てについて考える機会を提供する家庭教育学級を行う。



「親の学び研修会」リハーサル

成果

- これまで栗原市家庭教育支援チームが中心となり、家庭教育学級等の支援へ積極的に関わることで、不安や悩みを抱える親に対して寄り添う活動を行い、子供の健全な育成に寄与することができたが、今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う予防対策として、活動を支援する機会が少なかった。

今後の方向性

- 身近な地域のニーズに対応し、必要に応じて市内の学校と連携しながら、保護者への学びの場の提供を図っていく。
- 子育て経験者をはじめとする地域の多様な人材に、宮城県などが主催する各種講座・研修会への参加を促すことで、家庭教育を支援する人材を育成していく。

「宮城県学校・家庭・地域連携協力推進事業（学校を核とした地域力強化プラン）」の取組事例

(3) 家庭教育支援活動「ママカフェ オンライン」(宮城県 蔵王町)

取組の概要や経緯

未就学児の子を持つ親子を対象に、オンラインにでの親子向け教育・音楽番組を配信。子育てサポーターや子育て世代同士の交流を通して、親子の愛着形成や自身の子育てを振り返る機会を提供した。

内容

例年、一堂に会し開催していた「リフレッシュ♪MamaCafe」を、オンラインで開催した。子育てサポーターが主役となり、人形を用いた手遊びや劇などをオンライン上で配信した。

ポイント

オンライン配信にすることにより、感染症対策として物理的な接触を最大限に抑えて事業を実施することができた。事前に配信で使用するものと同様の人形を参加者へ送付し、当日のコミュニケーションツールとして活用した。

成果

事後のアンケートにより、「画面越しに他の親子や子育てサポーターと仲良く交流できた」「人形と子ども宛ての招待状が気に入っていた」といった意見が寄せられた。また「親子で楽しく遊ぶことが出来たか？」という質問に対しては、参加者全員から肯定する意見が見られた。



今後の方向性

オンラインだけではなく、実地での開催も視野に入れつつ開催を検討する。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域学校協働活動の取組事例

家庭教育支援事業の取組事例(宮城県丸森町)

取組の概要や経緯

当町では、少子高齢化により、核家族化や共働き世帯が増加しており、家族や地域における教育力の低下も懸念されるなど、子育て家庭を取り巻く環境は大きく変化している。そういった環境の変化に対応するため、家庭教育支援の取組を推進している。

内容

- ・家庭教育セミナーを開催し、心豊かな子どもたちの育成を図る。
- ・家庭教育講演等を支援・推進し、家庭教育の向上を図る。
- ・子供の成長・発達を促す読み聞かせ活動の定着化を目指すため、読み聞かせ講座を開催する。また、子どもたちを対象に読み聞かせボランティア講座を開催する。

ポイント

- ・PTA会員をはじめ、大人を対象に家庭教育セミナーを開催し、心豊かな子どもたちの育成を図る。
- ・各单位PTAで実施する、家庭教育講演等の開催を支援し、保護者の学習活動の充実を図ることにより、家庭教育の向上を図る。
- ・町内保育施設との連携を図りながら読み聞かせ講座を開催する。
- ・社会福祉協議会との連携により中高生を対象に読み聞かせボランティア講座を開催する。

成果

新型コロナウイルス感染症の影響により家庭教育に関する事業が中止となってしまった。そんな中で、地域人材を講師に招き開催した家庭教育講演会は、自然や歴史、文化財などの視点から、地域の魅力について学ぶことで、育ってきた地域で将来自分が果たすべき役割について親子で学ぶ機会を得ることができた。



今後の方向性

新型コロナウイルス感染症の影響により各種事業が中止になったが、十分な感染予防対策を取りながら事業をすすめていきたい。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「地域学校協働活動推進事業(家庭教育支援活動)」(宮城県七ヶ浜町)

取組の概要や経緯

家庭教育支援チーム員の育成を図り、地域ために貢献できる人材を育むため、「七ヶ浜町子育てサポーター養成講座」(全4回)を実施した。



内容

七ヶ浜町家庭教育支援セミナー「子育て&親育ち応援講座」での学習内容の提供や演習のファシリテーションを行う人材を養成し、家庭教育支援の振興と活動の活性化を図る。



今後の方向性

- ・家庭教育支援チームとしてすぐに活動できる人材を募集できるように、広報の工夫を工夫する。
- ・家庭教育支援チーム員の研修の機会を設定し研修を行う。支援チーム員の知識の習得や学び直しを図るとともに、ファシリテーションスキルの向上を図る。
- ・保健福祉部と協力し、家庭教育支援に対する現状を把握し、適切な内容の講座を実施できるようにする。

ポイント

講座では講演の聴講(座学)だけにならないように、テーマを設けてグループワークの時間を設定し、受講者が互いにコミュニケーションをとったり、情報交換したりする機会を創出した。

成果

受講人数は少数であったが、講座後の感想には

- ・自分が暮らしている町には家庭教育支援チームがあることを知ることができた。
- ・親同士が悩みを言える場所を増やしたい。
- ・仕事や子育てに余裕ができれば参加したい。

との記述がみられた。家庭教育支援チームについての認知を図り、家庭教育を支援する立場で活動してみようという動機付けができたと思う。しかし、すぐに活動できる人材の養成には至らなかったことから、周知や募集等々、次年度以降の改善が必要である。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力協力プラン) の取組事例

「家庭教育支援事業」(宮城県利府町)

取組の概要や経緯

近年、核家族化等の家族形態の変容や都市化、少子化が進み、家庭や家族を取り巻く社会状況の変化の中で、家庭の教育力の低下が指摘されている。また、地域のつながりの希薄化を背景に、子育て中の保護者が地域の中で孤立してしまうことが増えてきている。このように、子育て家庭や子供たちを地域全体で見守り支えることの必要性が高まっている中で本町の家庭教育支援事業が開始された。また、平成28年には家庭教育支援チームを立ち上げ、活動を実施している。

内容

- 保護者同士が悩みや苦勞を伝え合い、負担を和らげるとともに、保護者同士のコミュニティづくりを図る。
- 町内で活躍する子育て支援団体の活動の場を創出するとともに、子育てに悩みを抱える保護者の不安解消を図る。
- 「早寝早起き朝ごはん」の正しい生活習慣の大切さの啓発を行う。



【支援チームによる自主企画】

ポイント

- ①保護者同士が、気軽に思いや考え、情報共有できる場を提供することで、保護者自らが今後の子育てに生かせることを学び取る。
- ②家庭教育に関する専門知識や経験を有する人材を活用することにより、保護者に対して専門的な学びを促す。
- ③出前講座や来年度新1年生へのチラシ配布により、子供たちやその親に対し、正しい生活習慣の大切さを伝える。



【育児は育自】

成果

- ・子どもたちの成長に応じた親の悩みを講師が個別相談を行い、悩みの解消につながった。
- ・「コロナ禍での子育て」や「新型コロナウイルス感染症に関する知識」をテーマに事業内容を構成し、今日的課題に悩む保護者を支援することができた。
- ・「早寝早起き朝ごはん」の正しい生活習慣の啓発ができた。

今後の方向性

- ・受講者同士でのディスカッションや参加体験型の講座等、参加者が主体的、かつ相互に学び合う学習方法の講座を積極的に取り入れる。
- ・他課との連携を図り、町内の様々な場面で家庭教育支援チームの活躍の場を増やす。
- ・家庭教育チームメンバーを増員・育成する。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「町は学校」学校・家庭・地域が連携した教育活動(宮城県大和町)

取組の概要や経緯

家庭教育支援事業では、家庭・地域・学校と協働し、子育てしやすい環境を整え、安心して子どもを生み育てる環境づくりに努め、子育ての支援と親の学びを図ることを目的にたいわ家庭教育サポートチームを設置し、各種事業を行っている。

内容

○子育て講座 ○幼児学級 ○にこにこままサロン ○遊び場どうじょ!
○たいわ家庭教育サポートチーム事業 ○家庭教育支援広報誌「までえに」の発行
町内の子育て世代を対象に、子育てサポーターやサポートチームとの交流や参加者同士の交流を図ることで、子育てに関わる不安や心配が少しでも軽減されるよう活動を行っている。今年度は感染症対策を講じながらの事業実施となったが、事業の実施には、たいわ家庭教育サポートチーム、子育てサポーター「ままサポどれみ♪」の尽力が大きく、講座の運営や参加者との交流、見守り託児など、様々に活躍している。

ポイント

- ①活動及び学校毎に記録写真を用いた「活動啓発報告カレンダー」「協働教育ニュース」を発行、配布し、活動の様子を共有している。
- ②サポートチーム員として、社会福祉協議会や民生委員・児童委員、町内児童館など、活動に関わる各団体の担当者が集まり話し合うことで、年間の活動の把握と支援体制を整えている。
- ③「子育て通信」を隔月で発行し、児童支援センターや児童館、町内保育園など町内の子育て施設のイベントをカレンダー形式で掲載。コラムや子育て体験談も掲載している。

成果

- ・活動を通してボランティアと親たちが顔見知りになることにより、地域で子育てしやすい環境づくりへ貢献している。
- ・「遊び場どうじょ！」は野外での事業であるが、コロナ禍で抑圧された気持ちを発散する良い機会となり、参加者からのアンケートにおいても100%が「満足した」という回答であった。
- ・子育て中の親へ学習の機会を提供することができた。

今後の方向性

- ・子どもを地域全体で育むために、各地区の特徴を活かした活動を支援する。
- ・地域間の人材不足や人数の格差の解消に向けて、地域を越えた活動についても促進する。
- ・サポートチーム員として活動できる人材の育成を図り継続した取り組みとして今後も取り組んでいく。



「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」の取組事例

「女川町協働教育プラットフォーム事業[家庭教育支援]」(女川町)

取組の概要や経緯

子育て中の親が家庭で子どもを養育する場合の心構えや子どもへの接し方、留意点など、家庭教育上の諸問題を解決あるいは改善する学習の場とすることや震災で崩壊した地域コミュニティの形成を目指すため実施する。



内容

各子育て世代に合わせた講座を提供し、家庭教育上の課題を解決できるヒントを学んだり、同世代の母親が交流し意見交流できたりする場を設けた。また、親子アドベンチャークラブは、父親が活躍できる講座を提供した。

○薬物乱用防止教室：小学6年 ○情報モラル教室：小学3年 ○情報モラル教室：小学5年 ○ファミリーおはなし会

○立志の会志講演：中学2年 ○幼児保護者対象「行ってみっぺし!!」 ○卒業記念コサージュ作り：小学6年

○おかあさん学級 (①子供と楽しむ“リトミック”へおいでよ!! ②布の絞り染めを体験しませんか? ③あなたも工芸家? ④子育てパパ・ママの社会科見学 ⑤みんなでウキウキフラダンス ⑥粘土細工教室〜クリスマス飾り物を作ろう〜 ⑦花育 火を灯すキャンドル・・・ ⑧食育 薬膳料理で健康家族)

○親子アドベンチャークラブ (①火起こし体験 ②カヌー体験 ③針浜ウォークラリー)



ポイント

- ①子育て支援センターと連携し、事業を開講。
- ②過疎化が進む、地区を活動場所を選択し、海や山を利用し活動できることを紹介。
- ③小1プロブレムに対応するために、新遊学児童の保護者を対象に入学後の取組などを説明する講座を小学校と連携し実施。

成果

子育てをしている世帯がつながり、子育てに関する情報交換を積極的に行う様子が見られた。また、各支援団体や行政サービスをお知らせできるチャンスが増え、町民と行政が身近な存在となった。

成長の発達段階に応じて、講座を開講することができ、保護者の不安解消につながっている。

今後の方向性

事業を継続するためには、各課や団体と連携を密にする必要がある。そのためには、それぞれの事業を見直し、統合できるものは統合し、不足している事業については、新規事業を開講するなどを考えたい。また、不安を抱えており、参加に対して消極的な保護者に対してのアプローチも積極的に実施したいと考えている。

さらに、母親が講座の中心となることが多いが、父親も参加しやすい環境を構築したい。

